

1.	内容	1
2.	SYM車の保証	3
3.	メンテナンスレコード	4
	定期点検整備の記録	4
	その他 臨時整備の実施記録	5
	油脂液類・消耗品の交換記録	6
	SYMからのおすすめ点検整備記録	9
4.	コントロールロケーション	10
5.	ご乗車の前に	11
	環境汚染防止のために以下の事にご注意下さい	11
	純正スペアパーツの使用	11
	安全運転	12
	ドライビング	12
6.	各種機能の使い方	14
	メーター	14
	イグニッションスイッチの操作	15
	各種スイッチの使い方	16
	フロントボックス	17
	トランクボックス	17
	シートロック	17
	ヘルメットフック	17
	後方荷台取扱い方法	18
	ガソリタンクキャップ	18
	ブレーキ	19
	エンジン始動要領と注意事項	19
	正しい走り方	20
	スロットルコントロール	20
	車両の停止及び駐車	20
7.	乗車前の点検とメンテナンス	20
	ガソリンの点検	20
	日常の点検	21
	エンジンオイルの点検と交換	21

ギヤオイルの点検	23
ドラムブレーキの遊び点検と調整	22
ディスクブレーキの点検	23
スロットルバルブ遊び調整	24
バッテリーの点検とメンテナンス	24
タイヤの点検	25
フロントサスペンションの点検	25
ヒューズの点検と交換	26
ヘッドライト及びリヤライトの点検	26
ブレーキライトの点検	26
方向指示器とホーンの点検	27
ガソリン漏れの点検	27
車両各部の潤滑系機構の点検	27
スパークプラグの点検	27
エアクリーナーの点検	28
8. こんなときは	29
エンジンが始動しないとき	29
9. 排出ガス抑制システム	30
蒸発ガスコントロールシステム	30
二次空気供給システム	30
触媒還元装置	30
ブローバイガス還元システム	30
10. 排出ガスの減少とガソリンの節約	31
11. 排出ガス異常の原因	32
12. 定期点検スケジュール	33
13. 諸元表	34

保証について（詳しくは保証書をご参照ください。）

●保証修理

材料上あるいは製造上の不具合が発生した場合には、無償で修復させていただきます。
期間は登録または届出した日から2年間です。

●下記の消耗品の交換は実費をいただきます。

スパークプラグ	エアクリーナエレメント	ランプ類
ブレーキパッド	フューエルスレーナ	ヒューズ
ブレーキシュー	ドライブチェーン	モータ類のブラシ
クラッチディスク	ドライブベルト	ワイパーブレード
オイルクリーナ	ガスケット	パッキン類
ゴム類		

などこれに類するもの。

●下記の油脂類の補充、交換は実費をいただきます。

オイル	ラジエータ液	ガソリン
ブレーキ液	グリース	バッテリー液
クラッチ液	その他の潤滑油	ウオッシャー液

などこれに類するもの。

●保証修理の受け方は

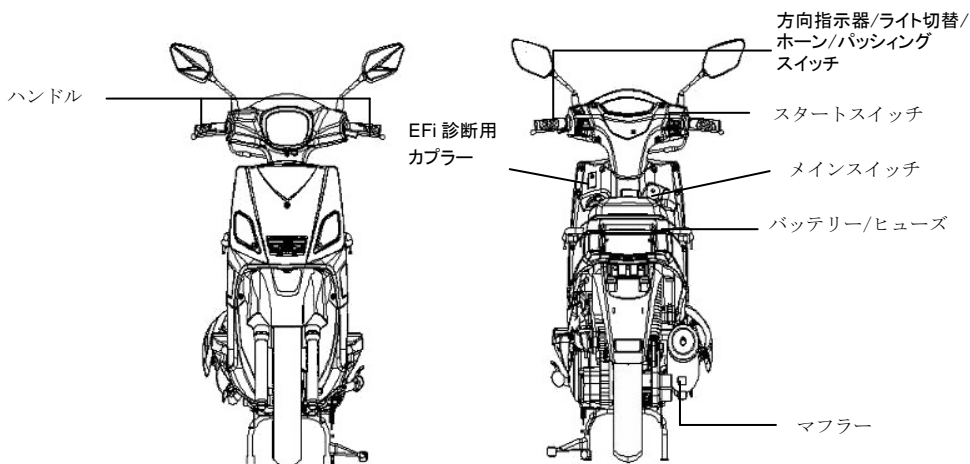
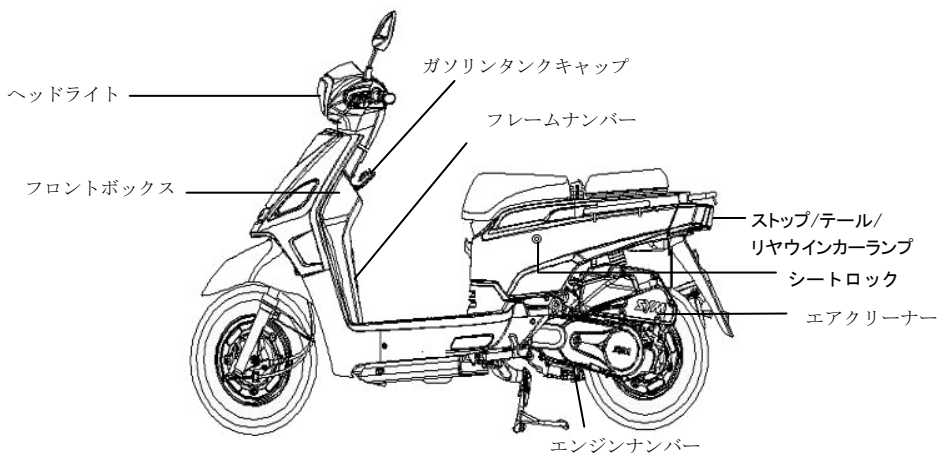
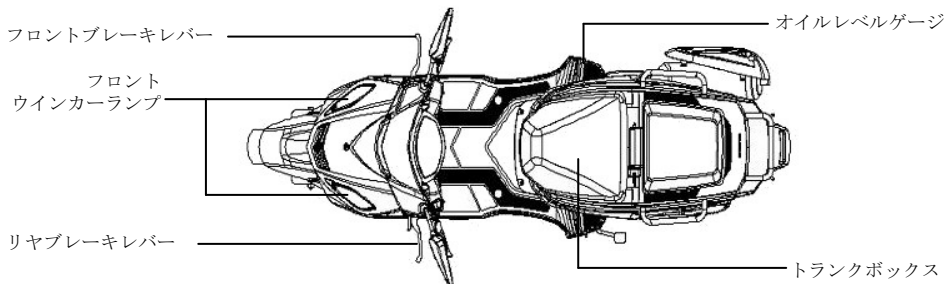
1. 保証修理をお受けになるときは必ず取扱マニュアル(保証書・メンテナンスレコード)をご提示ください。ご提示がない場合は保証修理をいたしかねます。
2. お買上げのSYM販売店に保証修理をお申し付けください。
ただし、お申し付けになる前に保証書の内容(特に保証できない事項)をよくお読みください。

●点検整備は怠りなく

取扱マニュアル(保証書・メンテナンスレコード)に記載してある各種点検は安全・快適にご使用いただくための必要最小限の点検です。この点検を怠ったり、不適当な取扱などが起因して不具合が発生した場合、また次のことが守られていない場合、保証修理をいたしかねることがありますのでご了承ください。

1. 取扱マニュアル等に示す取扱方法に従った正しい使用
2. 日常点検の実施
3. 法令またはSYMが指示する定期点検整備の実施
4. 取扱マニュアル(保証書・メンテナンスレコード)に示す定期交換部品の交換
5. 当該取扱マニュアル(保証書・メンテナンスレコード)の保持、ご提示
6. 不正改造

CITYCOM.125



お買い上げいただきありがとうございます。

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。
新車の場合、最初の 300Km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込みのうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000Km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

- 本公司出廠之新車噪音檢驗結果，均符合環保署九十六年一月一日實施之機動車輛四期噪音管制標準。

以下の事にご注意

- 1、ガソリンはレギュラーガソリン（オクタン価 90 以上）をご使用下さい。
 - 2、エンジンオイルは SAE 10W-30 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルをご使用下さい。
 - 3、定期メンテナンススケジュールにしたがって、定期的なメンテナンスを受けて下さい。
 - 4、環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないで下さい。
 - 5、注意事項：点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス制御システムの正常な作動に
関係しています。
 - 6、エンジンがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持込みになり点検を依頼して下さい。
- ※必ず無鉛レギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。

純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はおもとの設計が要求するものに適合する必要があります。“SYM 純正パーツ”はお乗りいただいている車両と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される“SYM 純正パーツ”を“SYM 特約店”からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。また、トラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように“SYM 純正スペアパーツ”を使用しましょう。

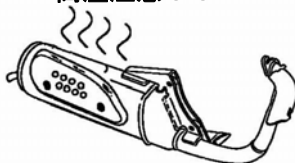
安全運転

走行時にはリラックスして、運転に適切な服装であることが重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを起こしやすくなります。

忘れないで下さい

- ヘルメットは必ず着用して下さい。
- 走行中は携帯電話を使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい。
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい。

高温注意！！



⚠ 警告！！

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーで火傷をしないように必ず後部乗員がベダルに足を置くことを確認して下さい。
- 二人乗りする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いて下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーで火傷をしないように車両を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時は火傷をしないようにくれぐれも注意して下さい。

ドライビング

走行に当たっては、身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応ができるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。

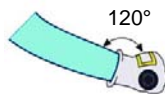
正しい姿勢



誤った姿勢



グリップの内側より指1本分開ける



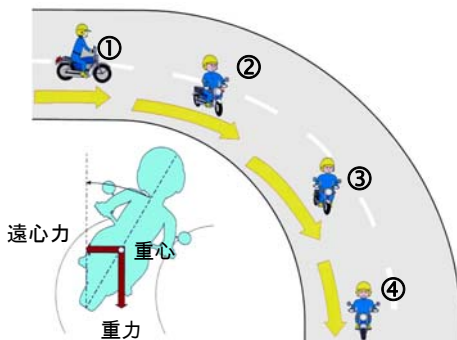
腕の角度

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には、運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

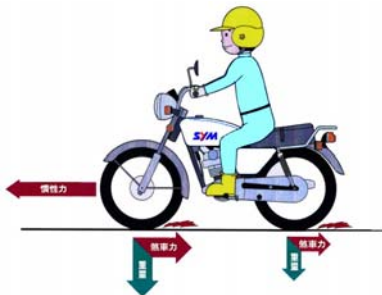
カーブ走行要領：

- ①カーブ手前でしっかり減速する。
- ②カーブ走行中は速度を一定に保つ。
- ③カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう。
- ④カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう。



ブレーキの要領

- ブレーキをかける時は、前後輪ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると、不安定になり転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。タイヤがロックされます。



- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

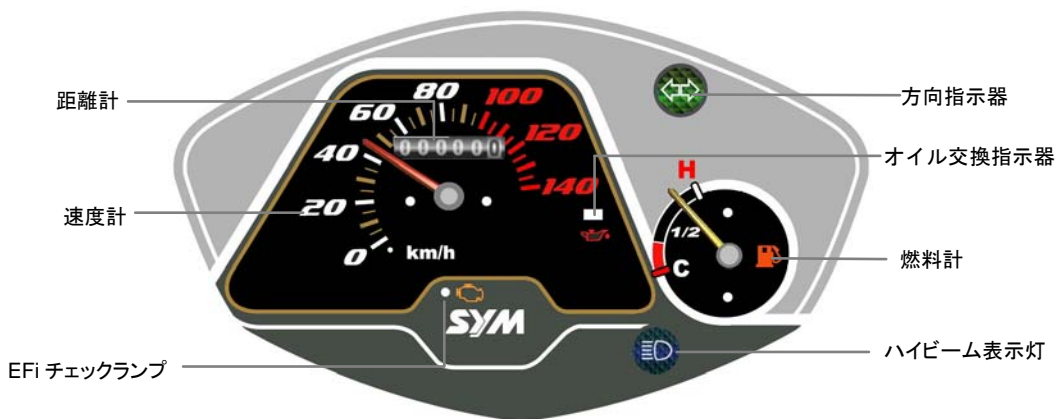
⚠ 注意！！

- 布切れ等燃えやすい物をボディカバーとエンジンの中に置いたりしないで下さい。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車両を傷めます。
- フロントボックスに荷物を積み過ぎないで下さい。ハンドル操作に影響を及ぼします。
- 荷物がある時と無い時ではハンドルに掛かる感覚が異なります。荷物の積み過ぎはハンドルをふらつかせ安定走行に影響します。特に過剰な荷物は載せないで下さい。
- 車両改造は構造やパフォーマンスに影響があります。結果的に車両の寿命を短くする事になります。また、

改造自体違法行為です。車両改造をしないように注意しましょう。

(下記の内容は三陽工業製 CITYCOM.125 の基本操作です。各モデル、仕様により異なります。)

メーター



速度計

走行中の速度を表示します。法定速度を守りましょう。

距離計

走行距離の累計表示をします。

ハイビーム表示灯

ヘッドライトをハイビームにした時に点灯します。

方向指示器

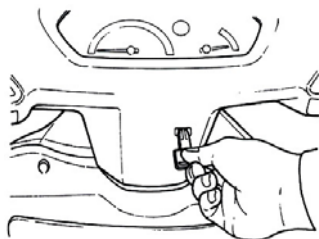
ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅させて表示します。

燃料計

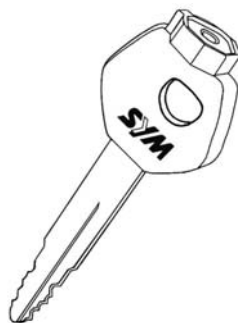
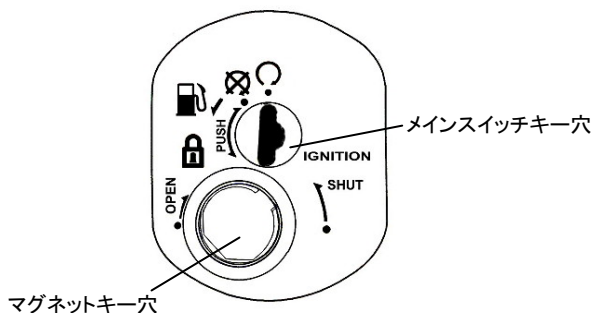
イグニッションスイッチが“OFF”の位置では表示しません。

イグニッションスイッチが“ON”の位置で燃料残量を表示します。“E”の位置に近づいたら早めに給油して下さい。

エンジンオイル交換指示器



イグニッションスイッチの操作



マグネットシャッターキー

マグネットキーシャッター

- 磁石式の盗難を抑止する鍵で、マグネットキー部をマグネットキー穴にセットし、右に回すとキー穴のシャッターが閉じます。
- メインスイッチを使用する時は、左に回すとシャッターが開きます。

メインスイッチ



“スタート” 位置

この位置でエンジンが始動できます。
キーを抜き取ることはできません。


“ストップ” 位置

エンジンをかけない時、エンジンを止める時に使います。
キーを抜き取ることができます。

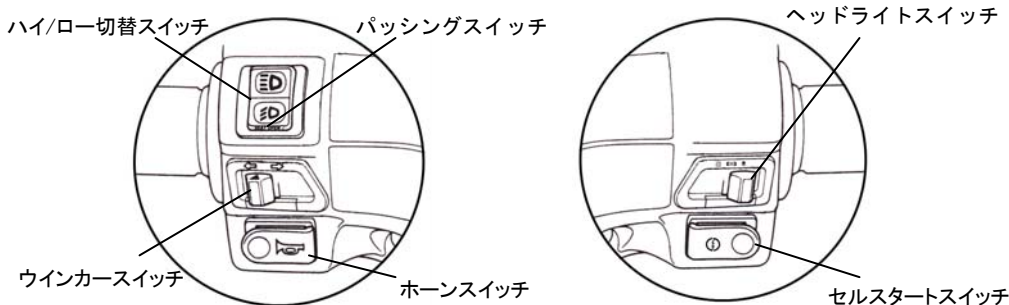
“ガソリタンク” 位置

この位置でガソリンキャップが開きます。
キーは “” からこの位置まで直接回す事ができます。
放すと “” 位置に戻ります。

“ハンドルロック” 位置

此キーを押してから回して下さい。ハンドルがロックされます。
キーを抜き取ることができます。
ハンドルロックを解除する時は “” 位置まで回して下さい。

スイッチの使い方



セルスタートスイッチ



スターターモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。

メインスイッチを“ON”の位置にし、前輪又は後輪のブレーキをかけた状態でスイッチを押します。

⚠ 注意！！

- エンジン始動後はすぐにボタンから手を離して下さい。セルボタンを押し続けるとエンジンを傷める恐れがあります。
- 前輪か後輪ブレーキをかけていないと始動しない安全機構になっています。

ハイ/ロー切替スイッチ



ハイビーム



ロービーム(市街地、すれ違い時はロービームをご使用下さい)

ウインカースイッチ

- メインスイッチが“ON”の位置の時にウインカースイッチを右又は左にスライドさせるとウインカーライトが点滅します。



右ウインカーライト点滅は右に曲がることを表します。



左ウインカーライト点滅は左に曲がることを表します。

ホーンスイッチ



メインスイッチが“ON”の位置の時にスイッチを押すとホーンが鳴ります。

フロントボックス

- ハンドル操作への影響を防ぐため、フロントボックスには重い物等載せないで下さい。
- 水濡れするので洗車する時、貴重品はフロントボックスに入れたままにしないで下さい。

⚠ 注意！！

エンジンシステムの機能障害を防ぐため、フロントボックス内の通気孔を物で塞がないで下さい

トランクボックス

- シート下にトランクボックスがあります。
- エンジンの熱で温度が上がりますので、熱に弱い物はいれしないで下さい。
- トランクボックスに貴重品は入れしないで下さい。
- 最大積載重量は 10kg です。
- シートを閉めた時は確実にロックされているか確認して下さい。
- 洗車時は荷物を取り出してから行って下さい。

シートロック

- 解除方法：シートロックキー穴にキーを差込み、左に回してロックを解除します。
- 施錠方法：シートを押し下げると自動的にロックします。

⚠ 注意！！

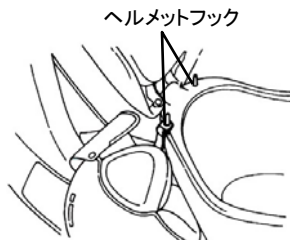
- シートをロックする前にキーをボックスから取り出したか確認して下さい。
- ボックス内に荷物を入れ過ぎてロック解除が困難な時はキーで開けて下さい。

ヘルメットフック

- 打シートを開け、フックに掛けてからシートを閉めて下さい。

⚠ 注意！！

- フックにヘルメットを掛けたまま走行しないで下さい。車両を傷めたり、ヘルメットの機能低下にもつながります。



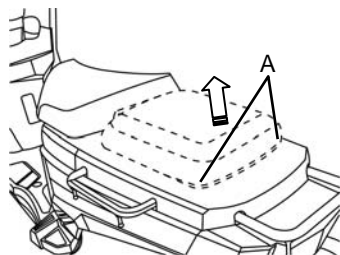
後方荷台取扱い方法

荷台として使用する場合:

1. 両手でシートのA点に手を入れて、上に引上げて下さい。
2. シートを垂直に起こすとロックされます。

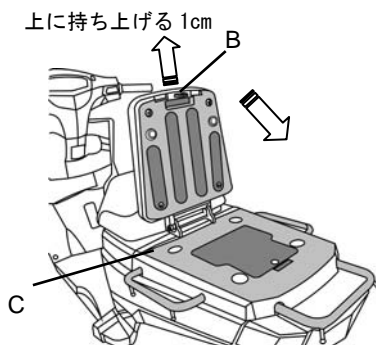
⚠注意！！

- 後方を荷台として使用する場合、しっかりと荷物を固定し安全運転をして下さい。
- 後方を荷台として使用する場合、シートを背もたれとして使用することが出来ませんのでご注意下さい。
- 荷台の積載制限は 30kg です。



シートとして使用する場合:

- 図面のようにB点とC点を 1cm 持ち上げるとロックが外れます。
- シートを倒しシートロックに入っていることを確認して下さい。

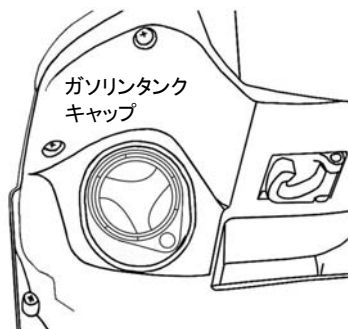


ガソリタンクキャップ

- メインスイッチキーをキー穴に差し込み左に回します。燃料タンクキャップは自動に開きます。
- 給油終了後は“カチッ”と音がしてキャップがロックされるまで押しながら右に回して閉めて下さい。

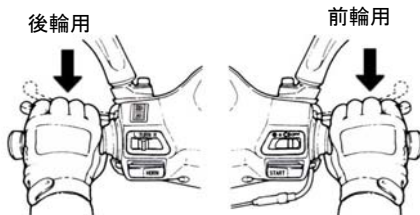
⚠注意！！

- メインスタンドで駐車して車体が安定している事を確認し、給油時はエンジンを必ず停止し、火気は厳禁です。
 - 給油時は勢いよく入れると吹き返しを起こして危険です。
 - 燃料を給油するときには入れ過ぎないで下さい。走行時に異常が発生したり、排気ガス制御システムに影響する恐れがあります。
- 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。



ブレーキ

- 不必要な急ブレーキは避けて下さい。
- 雨の日はスピードを抑えて、早めにブレーキをかけて下さい。
- 長時間連続してブレーキを使用しているとブレーキが過熱して、効きが悪くなります。
- ブレーキ時は前・後輪同時に使いましょう。



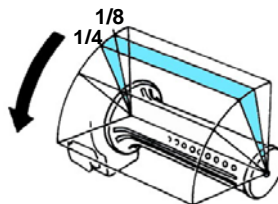
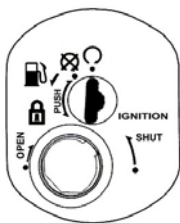
⚠️注意！！

前輪のみや後輪のみのブレーキ操作は不安定になり、転倒しやすくなります。

エンジン始動要領と注意事項

⚠️注意！！

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルとガソリンが充分にあるか、チェックして下さい。
 - エンジン始動時は車両が急に飛び出さないように後輪ブレーキを必ずかけて下さい。
1. イグニッションスイッチを“ON”の位置まで回して下さい。
 2. スロットルグリップを回さずにブレーキをかけた状態でスターターボタンを押して下さい。



⚠️注意！！

- スターターモーターを3～5秒回しても始動しない場合は、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回してスターターボタンを押して下さい。
- スターターモーター保護の為、15秒以上連続してスターターボタンを押さないで下さい。
- 5秒以上スターターボタンを押してもエンジンが始動しない場合は、10秒以上経ってから再度始動して下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車両や、ガソリンが空のまま給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。
何度もスターターボタンを押す必要がありますが、スロットルグリップは回さずに始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが暖まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質(CO)が含まれています。換気のよい場所でエンジンを始動して下さい。

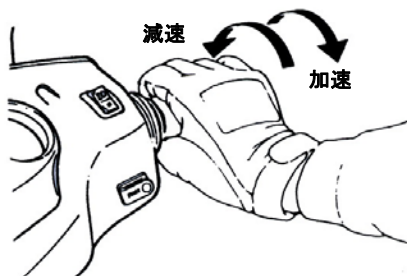
正しい走り方

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。
- 使用前にスタンドが収納されているか確認してからスタートしましょう。

スロットルバルブコントロール

加速：速度が速くなります。ゆっくり回しましょう。
登り坂ではスロットルグリップを徐々に回して力をつけましょう。

減速：速度を下げます。すばやく戻しましょう。



停車するとき

- 止まる地点が近づいたら
 - 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、徐々に左に寄りましょう。
 - スロットルを戻し、早めにブレーキをかけて下さい。
- 完全に車両が止まったら
 - 方向指示器を元に戻してイグニッションスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止して下さい。

⚠️注意！！

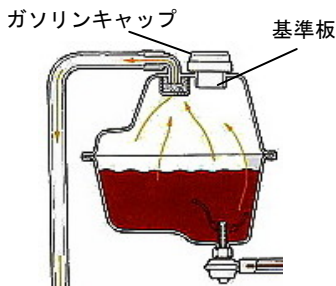
- 走行中はイグニッションスイッチを操作しないで下さい。思わぬ事故を招く恐れがあります。
 - サイドスタンドの使用は平坦ではないところや、一時的な停車時だけの使用にし、安全性向上のためにハンドルを左に切った状態で使用して下さい。
 - サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。思わぬ事故の原因となります。
- エンジンが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
 - ハンドルロックをかけて、駐車後は車両盗難にあわないうキーを必ず抜いて下さい。

⚠️注意！！

- 走行後はマフラーが大変熱くなっています。通行人や子供などが触れて火傷をしないように注意して駐車して下さい。

ガソリンの点検

- ガソリンは無鉛レギュラーのみを使用して下さい。
メインスイッチを“ON”の位置にしてガソリン残量を確認して下さい。
- 給油の時はメインスタンドで駐車し、エンジンを止めて火気の無い状況で行って下さい



日常の点検

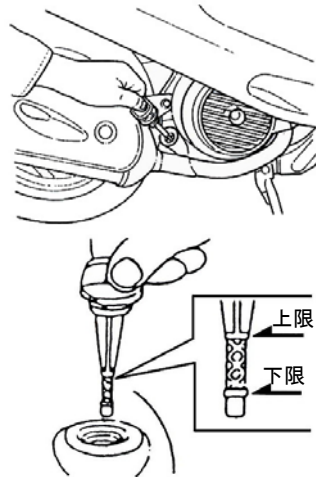
チェック項目		チェックポイント
エンジンオイル		エンジンオイルの量は充分ですか？
ガソリン		量は充分ですか？(無鉛レギュラーガソリンに限る)
ブレーキ	前輪	ブレーキング状態は？(ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
	後輪	ブレーキング状態は？(ブレーキレバーの遊び: 10~20mm)
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？(標準 1.75kg/cm ²)
	後輪	空気圧は正常ですか？(標準 1人乗車時 2.0kg/cm ² 2人乗車時 2.25kg/cm ²)
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に振動する。あるいは動かすのが重くないですか？
メーター・ライト・バックミラー		正しく作動しますか？ライトは点灯しますか？後方ははっきり確認できますか？
車体各部の締め付け状態		ボルト、ナットに緩みはありませんか？
異常のあった箇所		以前のトラブルは直っていますか？

⚠️注意！！

- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

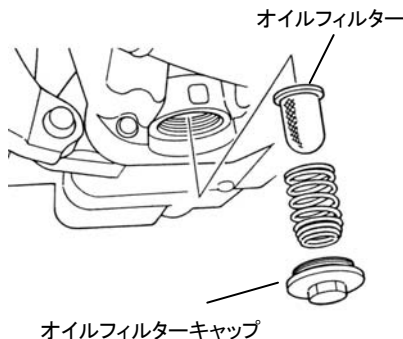
エンジンオイルの点検と交換

- メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を置いて下さい。エンジンを止めて2~3分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭き取って再度入れて下さい。(回転はさせない)
- レベルゲージを抜き取りオイルレベルが上限、下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- オイルが下限付近の時は補充して下さい。
- エンジンオイルは SAE 10W-30 API SH/CD と同等以上のものを使用して下さい。低グレード、低品質のオイルをご使用の場合はメーカーの保証対象外です。
- オイル容量: 1.0リットル(交換時 0.8リットル)
- オイルは 1000km 毎に交換して下さい。



【オイルフィルター清掃】

- オイルフィルターキャップを開けて、オイルフィルターを取り出します。ガソリン又はエアガンを使ってきれいに清掃して下さい。
- オイルフィルターはエンジンの右下にあります。



⚠注意！！

- 傾斜していたり、エンジン停止直後は正確なオイル量は確認できません。
- オイル交換時はフィルターも同時に清掃して下さい。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検：水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから3～5分待ってトランスミッションオイルインフュージョンボルトを外し、ドレンボルトの下に計量グラスを置いてからドレンボルトを外して下さい。出てきたオイルを計量してオイル量の点検をして下さい。

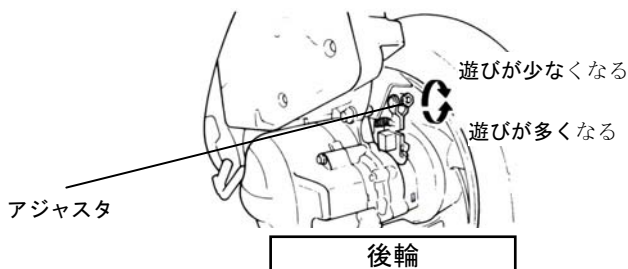
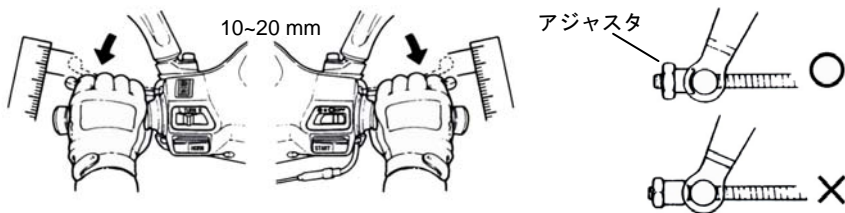
(全容量:110cc / 交換時:100cc)

交換：エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車両を止めて下さい。インフュージョンボルトとドレンボルトを外してオイルを抜取して下さい。ドレンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。新しいトランスミッションオイル(100cc)を入れて下さい。インフュージョンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。(ボルトがしっかりと閉まっているか、オイル漏れが無いかを確認して下さい。)

※推奨オイル:SYM 純正ハイポイドギヤオイル(SAE 85W-140)

ドラム式ブレーキの遊びの点検と調整

- 後輪ブレーキアームのアジャスタを回してブレーキレバーの遊びを調整します。
- 調整後はブレーキを握ってみて、ブレーキの効き具合を確認して下さい。
- スケールなどを使って遊びを測って下さい。遊びは10～20mmです。
- 定期的にSYM 特約店でブレーキの点検をして、ブレーキライニングの摩耗がひどい場合は交換して下さい。
- アジャスタの凹部がピンにかみ合う位置にして下さい。



ディスクブレーキの点検

- 目視にてブレーキラインの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキライン接続部に緩みがないか確認して下さい。ステアリングを回してブレーキラインに損傷を起こしそうな部分がないかチェックして下さい。
- 万一漏れや損傷があった場合は車両をSYM 特約店にお持込みになり修理を依頼して下さい。
- ブレーキを作動させ、パッドの摩耗をチェックして下さい。キャリパー後方から点検をしてブレーキパッドの使用限界部分がローターに当たっている場合はパッドを交換して下さい。
- 車両を安定した場所に停めて、オイルレベルが下限を下回っていないかチェックして下さい。

推奨オイル:WELL RUN(DOT 3)

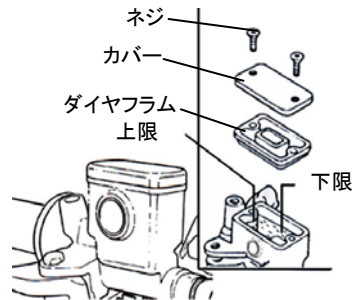
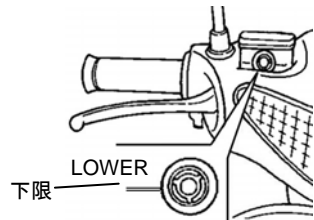
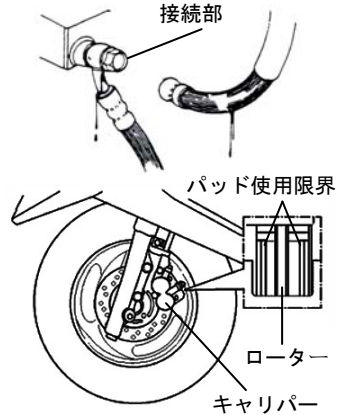
⚠ 注意！！

- 車両が傾いていると正確なオイル量が測れません。
- 化学変化の恐れがあるので、種類の違うオイルを混ぜて使わないで下さい。
- 補充時は上限を超えない事。塗装面を傷めるので塗装部やプラスチックに付着させないように注意して下さい。

- スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを外す。
- リザーバー内に異物が入らないように異物や汚れを拭取って下さい。
- ダイヤフラムを外します。
- ブレーキオイルを上限まで補充して下さい。
- ダイヤフラムとマスターシリンダーカバーを取り付ける。
- ダイヤフラムの向きと異物の混入に注意しながらカバーを開けて下さい。

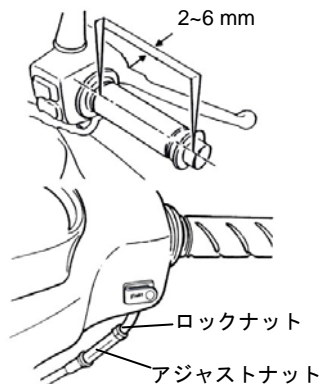
⚠ 注意！！

- 点検や補充時はエンジンを停止させてから行って下さい。



スロットバルブクリアランスの調整

- 2~6mm の遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時はまずロックナットを緩めてから調整ナットを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締めて下さい。
- 調整完了後はスロットルの回転、ハンドルの左右への動きに異常がないか、ケーブルが干渉していないかを確認して下さい。



⚠ 注意！！

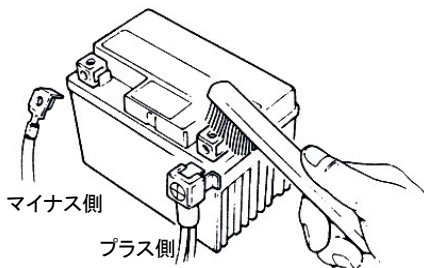
- 高速走行時のスピードコントロールに危険が無いように注意して下さい。

バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万一異常があった場合はSYM 特約店にご相談下さい。
- バッテリー端子に汚れや腐食がある時は取り外して清掃して下さい。
- イグニッションスイッチを“OFF”にして、先にマイナスケーブルを外し、それからプラスケーブルを外します。

⚠ 注意！！

- 密閉タイプのバッテリーなので、キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないしていると自己放電します。長期間使用しない場合は車両から外して通風のある冷暗所に保管するか、マイナスケーブルを外しておくようにしましょう。
- バッテリーを交換する時はメインスイッチを“OFF”にしてから行って下さい。また、交換する時は必ず密閉式のメンテナンスフリーバッテリーで指定規格のものを使用して下さい。
- エンジン回転中はバッテリーの端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります。

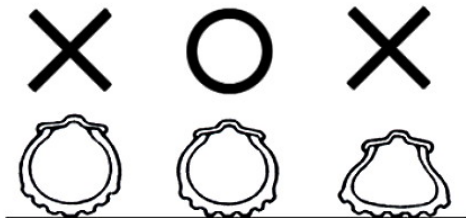


⚠ 注意！！

- 端子に白い粉が付着している時はぬるま湯で清掃して下さい。
- 端子に腐食が激しい場合は金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
- 清掃後は端子にグリスを塗ってからケーブルを取り付けて下さい。
- バッテリー取付け時は取外しの逆手順で取付けて下さい。

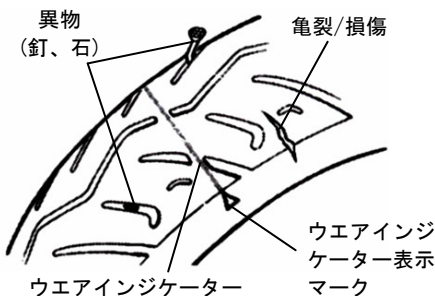
タイヤの点検

- エンジンを止めてから、タイヤの点検や空気圧調整をして下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、エアゲージで点検して、指定空気圧に調整して下さい。
- タイヤ空気圧はタイヤが冷えている状態でエアゲージによりチェックして下さい。



標準タイヤ空気圧スペックを参照

- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい。
- タイヤの溝に釘や小石が噛んでいないか確認して下さい。
- タイヤの溝が充分かどうか、ウエアインジケータを
チェックして下さい。
- スリップサインが出ているタイヤは使用限界ですので、
すぐに交換して下さい。



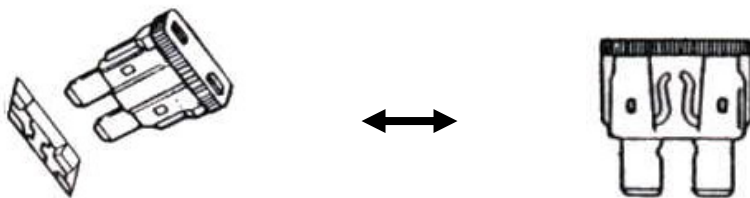
ステアリングハンドル/フロントショックアブソーバーの点検

- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- サスペンションに損傷が無い目視にて確認して下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか点検して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締め具合を点検して下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らしてみ、ガタや異常な抵抗、一方に引っ張られたりしないか点検して下さい。
- ハーネスやワイヤー等によりハンドルが取られないか点検して下さい。
- 万一異常があった場合はSYM 特約店で点検修理をお受け下さい。



ヒューズの点検と交換

- メインスイッチを“OFF”にしてからヒューズを確認して下さい。ヒューズが切れている場合は同じアンペア数の新しいヒューズに取替えて下さい。指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱や焼損の原因になりますので、絶対にしないで下さい。電気回路システムを破損する恐れがあります。
- ヒューズはバッテリーの近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを引抜いて下さい。そしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
- 夜間走行中、ヒューズが切れてライトが突然消える等の事象が起きることもあります。
- ヒューズを交換する時はコネクターにしっかりと差し込んで下さい。接触が緩いと、接触不良や損傷を与える原因になります。
- ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因不明で切れてしまう場合はお買い求めのSYM 特約店に車両をお持ちいただき、点検してもらって下さい。



断線状態

フロント及びリヤライトの点検

- エンジンを開始してヘッドライトとテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

ブレーキライトの点検

- メインスイッチを“ON”の位置にして前後輪のブレーキレバーを握ってブレーキライトの点灯を確認して下さい。
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。

方向指示器とホーンの点検

- メインスイッチを“ON”の位置にしてください。
- 方向指示器のスイッチを作動させて前後左右のライトの点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いかを確認して下さい。
- ホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認して下さい。

⚠ 注意！！

- 方向指示器ライト球は規定の規格バルブをご使用下さい。異なった規格のバルブを使用すると、正常な作動ができない恐れがあります。
- 後続車に注意を促すために方向転換や進路変更時は方向指示器を点灯させて合図して下さい。
- 方向指示器は使用後直ちにボタンを押して解除して下さい。点灯させたままですと他の車両の迷惑になり、大変危険です。
- 電装系の改造は負荷が大きいかかりショートの原因にもなり、車両焼失の恐れもあります。絶対にしないで下さい。

ガソリン漏れの点検

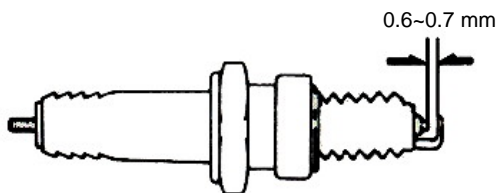
- ガソリンタンク、給油口キャップ、ガソリンホースの漏れを確認して下さい。

車両各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
(例:メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーのピボット部等)

スパークプラグの点検

- プラグキャップを外し、プラグを取外します。
- 電極の汚れ、カーボンの付着を確認して下さい。
- カーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンで洗浄したのち、布でよく拭き完全に乾かして下さい。
- 電極隙間を点検してギャップを0.6~0.7mmに調整して下さい。(ギャップツールを使用)
- スパークプラグは手で締めした後、さらにレンチで1/2~3/4回転締め付けて下さい。



警告！: 走行後はエンジンが大変熱いので、火傷に注意して下さい。

※メーカー推奨規格のスパークプラグをご使用して下さい。(スペック表参照)

エアクリーナーの点検

エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費悪化の原因となります。

〈取外し手順〉

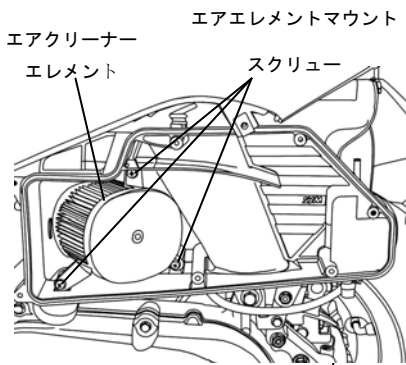
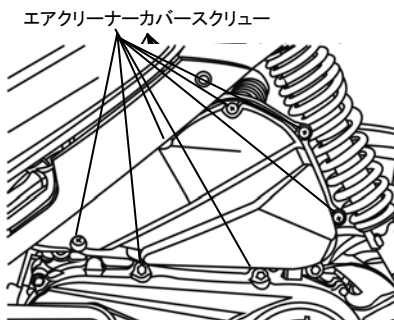
1. エアクリーナーカバーから取付けスクリューを外して下さい。
2. エアクリーナーカバーを外して下さい。
3. エアクリーナーエレメントを取外す。
4. エレメントの汚れを点検し、清掃する。汚れがひどい場合は交換して下さい。

〈取付け方法〉

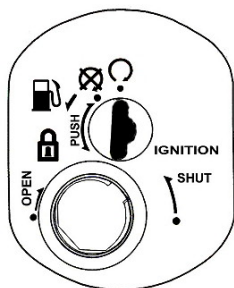
- 取外しの逆手順にて取付けをして下さい。

⚠ 注意！！

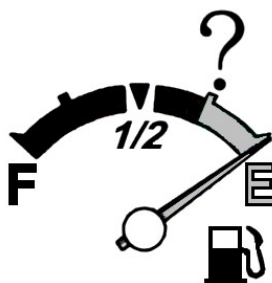
- エアクリーナーが正しく装着されていないとゴミや汚れを直接吸ってシリンダーの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えますので確実に取付けて下さい。
- 洗車する時にエアクリーナーが濡れるとエンジンが始動できなくなる恐れがあります。
- エアクリーナー後方にブリーザードレンがありますので、1000km 毎に堆積物を排出して下さい。



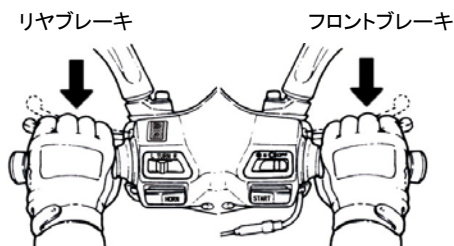
エンジンが始動しないとき



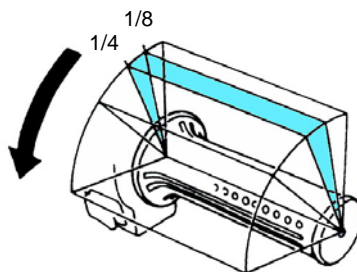
1. メインスイッチは“ON”の位置にありますか？



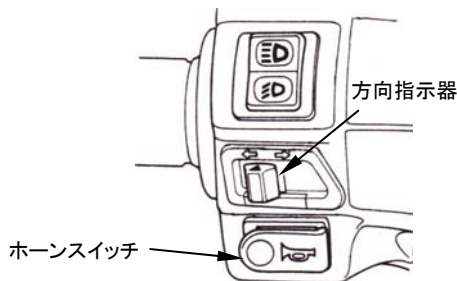
2. ガソリン残量は充分ですか？



3. セルボタンを押す時に前又は後ブレーキをかけていますか？

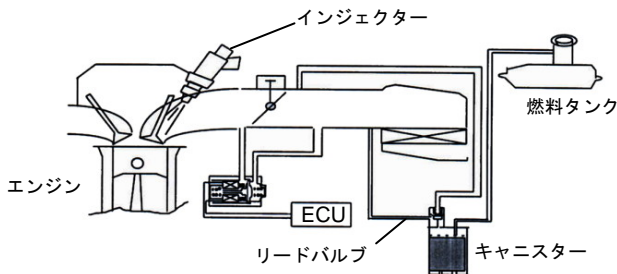


4. セルボタンを押しながら、スロットルを回し過ぎていませんか？



5. メインスイッチを“ON”の位置にしてホーンスイッチを押して下さい。
ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。

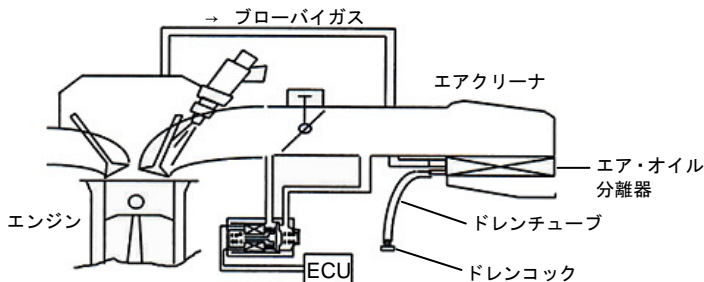
蒸発ガスコントロールシステム



システム:

ガソリンタンク内等の蒸発ガスは蒸発コントロールシステム内の各パイプに流れ込み大気中に放出されないようにしています。蒸発ガスはキャニスターに導かれキャニスターの炭素粒子に一時的に吸収されエンジン始動時に負圧により燃焼室内に導かれ燃焼されます。

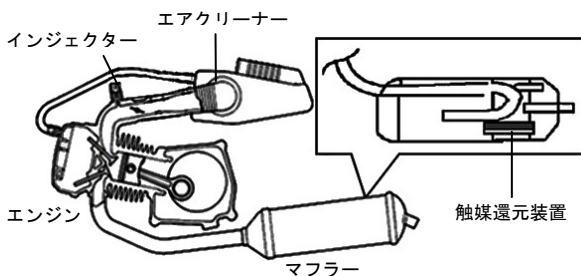
ブローバイガス還元システム



システム:

エアクリーナーに取付けてあるオイル・エア分離器にエンジンからのブローバイガスが流れ込みます。分離されたエアはエンジンの負圧により、エンジンに吸い込まれ燃焼されます。オイルはドレンチューブ内に溜まるので、定期的に抜いて下さい。

触媒還元装置



システム:

触媒還元装置はマフラー内にあり、不完全燃焼ガスのHC、NOxはマフラー内の触媒による反応により、無害のCO₂、H₂O、N₂に還元されて排出されます。

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼は CO と HC を発生される大きな要因で、ガソリンの浪費にもつながります。車両の性能維持と排気ガスの減少、ガソリンの節約のためにも定期的な点検とメンテナンスが重要です。

一、エアクリナーの清掃と交換：

エアクリナーはシリンダーに吸い込まれる空気のコホリや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気がスムーズに流れません。通気性が悪いと空気が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼してパワーダウンや燃費の悪化、排出ガス濃度の上昇をおこします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ず SYM 純正エアクリナーを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。

二、点火プラグの清掃、調整と交換：

点火プラグの汚れを清掃し、ギャップを調整します。電極に摩耗や異常がある時は交換して下さい。不良なプラグは不完全燃焼や燃費の悪化、パワーダウンを招きます。

三、バルブクリアランスの調整：

バルブシートの摩耗、密閉不良、バルブクリアランスの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的な点検調整をして、摩耗している場合は交換して下さい。また、バルブクリアランスの調整は正確にされていなければなりません。

四、オイル交換時は上限を超えない：

オイル量が過剰の場合、燃焼室までオイルが上がり炭素が溜まります。混合気の燃焼に影響し、パワーダウンや燃費の悪化を招きます。

五、点火時期は確実に合わせて下さい：

強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリンの節約、排出ガスの減少につながります。

六、エンジンの劣化や摩耗はガソリンの浪費につながります。部品の点検をして下さい。

七、燃料及び点火系統を常に良好な状態に維持することは、ガソリンの節約と環境汚染防止につながります。

八、ガソリンの節約と環境汚染防止の為に以下の事項に配慮して下さい。

(1) 車両は暖気運転してから走行しましょう。

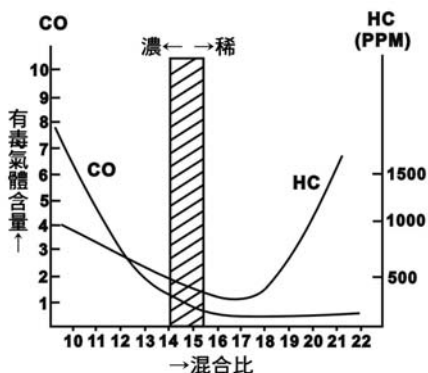
(2) 走行時はスロットルバルブを軽く握り、一定の速度を保ち必要以上にアクセルをふかさないで下さい。

(3) 停車、駐車時は早めに減速し、急ブレーキは避けましょう。

九、メンテナンス、調整、点検を受けた車両は最高の状態になっています。

CO	HC	原因
高	正常	ガソリンと空気の混合比が濃い
正常	高	1. 点火系統不良： <ul style="list-style-type: none"> • 点火タイミングの不良 • プラグの汚れ、ギャップの不良 • 点火コイルの不良 2. エキゾーストバルブの摩耗 3. シリンダーの摩耗
低	高	1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. エア漏れ： <ul style="list-style-type: none"> • 負圧チューブ漏れ • インレットパイプ漏れ • 点火プラグガスケット漏れ • 燃料噴射システム設定不良
高	高	1. エアクリーナーの汚れ 2. インジェクター不良： <ul style="list-style-type: none"> • 混合気が濃すぎる • 燃料噴射システム設定不良 3. PCVバルブの緩み

排気ガス煙異常の原因
1. エンジンオイルの過剰 2. オイルポンプの異常 3. 粗悪オイル又は低品質オイルの使用 4. エンジンの老化、摩耗 5. 長時間の低速使用(時速 20~30Km/h 以下) 6. マフラー内のカーボン堆積による汚れ



10. 排出ガスの減少とガソリンの節約
11. 排気ガス以上の原因

項目	メンテナンス キロメートル	300KM	1000KM毎	3000KM毎	6000KM毎	12000KM毎	備考
1	エアクリナーエレメント (備考)	I		C	R		
2	オイルフィルター (スクリーン)	C			C		
3	エンジンオイル	R	I	3000KM毎交換			
4	タイヤ空気圧	I	I				
5	バッテリー	I	I				
6	スパークプラグ	I		I		R	
7	キャブレター (アイドリングスピード)	I			I		
8	ステアリングベアリング、ハンドル	I		I			
9	トランスミッションの漏れチェック	I	I				
10	クランクケースの漏れチェック	I	I				
11	トランスミッションオイル	R	5000KM毎交換(5ヶ月)				
12	ドライブベルト/ローラー				I	R	
13	ガソリンタンクスイッチ、ライン	I		I			
14	スロットルバルブ操作、ケーブル	I	I				
15	エンジンボルト、ナット	I		I			
16	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン				I		
17	排気システム、クリーニングカーボン				I		
18	カムチェーン/イグニッションタイミング	I		I			
19	バルブクリアランス	I			I		
20	ショックアブソーバー	I			I		
21	前、後サスペンション	I			I		
22	メイン/サイドスタンド	I			I/L		
23	クランクケース、ブローバイシステム (PCV)	I		I			
24	クーラント	I	I			R	
25	クーリングファン、ライン	I	I				
26	クラッチディスク				I		
27	ブレーキメカニズム/ブレーキライニング (パッド)	I	I				
28	各コンポーネントボルト/ナット	I	I				

☆上記メンテナンススケジュールは 1000km 毎を参照ベースとして立てられています。

※車両を適正な状態に保つ為に SYM 正規代理店または取扱店に持ち込み、定期的チェックと調整を受けてください。

コード: I 点検 A 調整 R 交換 C 清掃 (必要に応じて交換) L 給油

備考: 1. ほこりっぽい道、環境汚染のひどい地区での走行車両はエアクリナーエレメントの洗浄、取替えは、より頻繁にしてください。

2. 頻繁に高速走行したり、総走行距離数が高い場合はメンテナンスをより頻繁にしてください。

【備考欄のノートは適用モデルを表記しています】

注1: 高速運転、高負荷運転や短距離走行が多い車両は 1000km 毎にオイル交換をして下さい。

注2: 環境温度が 3℃以上なら SAE 85W-140, 3℃以下であれば SAE 85W-90 を選択して使用して下さい。

項 目	CITYCOM.125
	AP12V
全長/全幅/全高(mm)	1,920 / 680 / 1,080
軸間距離/シート高(mm)	1,380 / 750
重量(kg)	118
最小回転半径	2.0 m
ヘッドライト (ハイ / ロー)	12V 35W / 35W ×1
テールライト/ストップライト	12V 5W / 21W ×1
フロント/リアウインカーライト	12V 10W ×4
メーター(ウインカー)	12V 3.4W ×1
メーター(照明)	12V 5W ×1
メーター(ハイビーム)	12V 1.7W ×1
ヒューズ	20A ×1 / 15A ×1 / 10A×2
バッテリーサイズ/容量	TTZ10S(密閉メンテナンスフリータイプ)/ 12V 8.6Ah
スパークプラグ	CR7 HSA
前輪ブレーキ	ディスク(Ø180 mm)
後輪ブレーキ	ドラム (Ø 130 mm)
タイヤ (前/後輪)	100/90-10 56J
空気圧(1人乗車時)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.00 kg/cm ²
空気圧(2人乗車時)	前輪 1.75 kg/cm ² / 後輪 2.25 kg/cm ²
エンジン方式	4 ストローク/4 バルブ/セラミックコートシリンダー/空冷
総排気量	124.6 c.c.
最大出力	9.8 ps / 8,000 rpm
最大トルク	1.0 kg-m / 6,000 rpm
登坂能力	28°以上
点火方式 / 圧縮比	ECU / 11.2 : 1
エンジン回転数(アイドルリング)	1,700 ±100 rpm
始動方式	セル
燃料タンク容量	5.5L (無鉛ガソリン)
エンジンオイル容量	1.0L (交換時 0.8L)
ギヤオイル容量	110 cc (交換時 100 cc)



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。